

会社概要

(2011年3月31日現在)

証券コード

5727

- 社名 東邦チタニウム株式会社
- 本社所在地 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎三丁目3番5号
- 生産拠点 茅ヶ崎工場、若松工場、八幡工場、日立工場、黒部工場
- 資本金 48億12百万円
- 従業員数 829名
- 主要な子会社 トーホーテック株式会社
株式会社テスコ
東邦マテリアル株式会社
Toho Titanium America Co., Ltd.
Toho Titanium Europe Co., Ltd.
- ホームページアドレス <http://www.toho-titanium.co.jp/>

株主メモ

- 事業年度 4月1日から3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 基準日 定時株主総会権利行使株主 3月31日
期末配当金受領株主確定 3月31日
中間配当金受領株主確定 9月30日
- 単元株式数 100株
- 公告の方法 電子公告
- 上場証券取引所 東証第一部
- 株主名簿管理人 中央三井信託銀行株式会社
- 同事務取扱所 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
(証券代行事務センター)
フリーダイヤル 0120-78-2031
- 取次所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店

表紙：浅草寺本堂(チタン製の瓦が使用されています)

株主通信

第80期(2011年3月期)

連結決算のご報告

Titanium Dream



東邦チタニウム株式会社

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より、当社に格別のご高配を賜わり、厚く御礼申し上げます。

このたびの東日本大震災により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

さて、第80期の当社グループの事業概況について、ご報告申し上げます。

金属チタン事業は、チタン需要が回復し、販売量が増加して増収となりましたが、販売価格の低下及び円高と若松工場の減価償却費負担により損失を計上しました。

機能化学品事業は、電子部品の需要が増加したことを主因に増収となりましたが、円高及び原料価格上昇によるコスト高により減益となりました。

その結果、当期の業績は、売上高は前期比29.7%増の281億35百万円となりましたが、誠に遺憾ながら、営業損失は44億96百万円、経常損失は53億77百万円、当期純損失は55億5百万円となりました。

チタンの需要は今後着実に増加すると見込まれ、それに対応すべく、当社は、昨年4月に若松工場の営業運転を開始したところでありますが、さらに30%の生産能力増強に着手しました。

今後も「チタンをよりメジャーな金属に育成し、その中で世界のトッププロデューサーを目指す」という当社ビジョンの実現に向けて一段と努力してまいります。

株主の皆様には、引き続き変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2011年6月

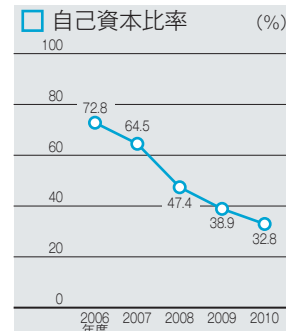
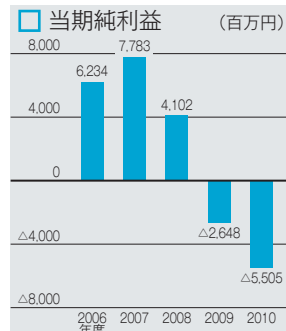
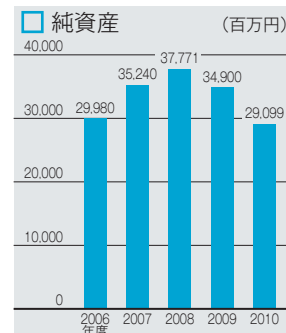
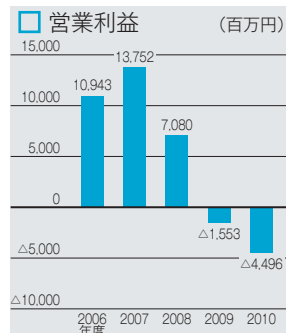
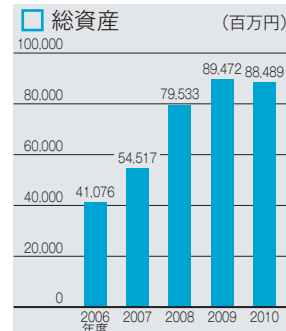
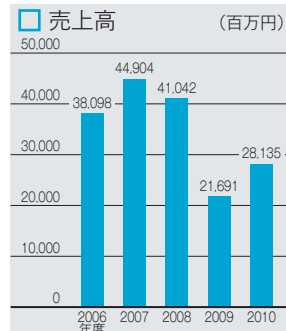


東邦チタニウム株式会社

代表取締役社長 久留嶋 毅

財務ハイライト

売上高	281億35百万円
営業利益(損失)	△44億96百万円
経常利益(損失)	△53億77百万円
当期純利益(損失)	△55億5百万円

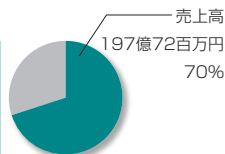


セグメント情報

□ 金属チタン事業

主要製品

- ・ スポンジチタン
- ・ チタンインゴット
- ・ 高純度チタン
- ・ チタン加工品
- ・ チタン系粉



当期の金属チタンの需要は、景気の回復とともに航空機の生産・出荷が増加し、海水淡水化プラント等一般工業分野でも需要が回復しました。

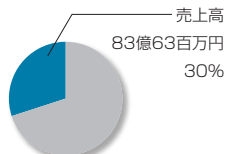
このような状況の下、スポンジチタン、チタンインゴットとも前期に比べ販売量が大幅に増加しました。

これらの結果、当事業の売上高は前期比44.4%増の197億72百万円と大幅に増加しましたが、販売価格の低下及び円高と若松工場の減価償却費負担により40億31百万円の営業損失となりました。

□ 機能化学品事業

主要製品

- ・ プロピレン重合用高活性触媒「THC」
- ・ 超微粉ニッケル
- ・ 高純度酸化チタン



触媒製品については、先進諸国でのポリプロピレン需要の回復が遅れていることや、顧客の旧生産ラインの閉鎖等を背景に売上高は前期に対し若干減少しました。

電子部品材料については、電子部品の需要がアジア向けを中心に増加したこと、スマートフォン等の新規電子機器の需要増もあって、売上高は前期に対して増加しました。

これらの結果、当事業の売上高は、前期比4.6%増の83億63百万円となりましたが、営業利益は、円高及び原料価格上昇によるコスト高により前期比23.0%減の13億73百万円となりました。

連結財務諸表（要旨）

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

□ 連結貸借対照表

単位：百万円

科目	当期	前期
	2011年3月31日	2010年3月31日
(資産の部)		
流動資産	21,175	17,987
固定資産	67,314	71,484
有形固定資産	65,204	70,010
無形固定資産	627	289
投資その他の資産	1,481	1,184
資産合計	88,489	89,472
(負債の部)		
流動負債	20,277	19,129
固定負債	39,113	35,442
負債合計	59,390	54,571
(純資産の部)		
株主資本	28,924	34,733
その他の包括利益累計額	87	82
少数株主持分	88	84
純資産合計	29,099	34,900
負債純資産合計	88,489	89,472

□ 連結損益計算書

単位：百万円

科目	当期	前期
	2010年4月1日～ 2011年3月31日	2009年4月1日～ 2010年3月31日
売上高	28,135	21,691
売上原価	27,656	18,636
売上総利益	479	3,054
販売費及び一般管理費	4,975	4,608
営業利益	△ 4,496	△ 1,553
営業外収益	108	79
営業外費用	990	700
経常利益	△ 5,377	△ 2,174
特別利益	704	356
特別損失	435	42
税金等調整前当期純利益	△ 5,108	△ 1,860
法人税、住民税及び事業税	71	72
法人税等調整額	320	707
法人税等合計	391	780
少数株主損益調整前当期純利益	△ 5,499	—
少数株主利益	6	7
当期純利益	△ 5,505	△ 2,648

□ 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科目	当期	前期
	2010年4月1日～ 2011年3月31日	2009年4月1日～ 2010年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,371	3,555
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,588	△ 20,235
財務活動によるキャッシュ・フロー	767	12,599
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	0
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△ 449	△ 4,081
現金及び現金同等物の期首残高	735	4,816
現金及び現金同等物の期末残高	286	735

トピックス

□ 若松工場生産能力増強

当社は、世界的なチタン需要の拡大に対応し、本年2月、若松工場のスポンジチタン生産能力を年産3,600トン増の15,600トンに増強する工事に着手しました。

稼動開始は、2012年4月を予定しております。これにより、当社のスポンジチタン生産能力は、茅ヶ崎工場の13,200トンと合わせて年産28,800トンとなります。

<当社スポンジチタン年間生産能力>

	現 状	増強後
茅ヶ崎工場	13,200トン	13,200トン
若松工場	12,000トン	15,600トン
合 計	25,200トン	28,800トン



若松工場の赤熱した反応容器

□ 大型海水淡水化プラントプロジェクト始動

サウジアラビアの世界最大規模のラスアズール海水淡水化プラントの建設が決定しましたが、このプロジェクトでは、従来銅とニッケルの合金が使用されていたチューブをすべてチタン製にすることとなり、6,200トンのチタン管が使用されます。

□ ボーイング787、本年納入開始へ

チタンを多用する新型航空機ボーイング787は、本年7～9月の第1号機の全日空への納入に向けて、テストフライトが順調に進捗しています。

□ 機能化学品事業本部が「TPM アドバンスト特別賞」を受賞

当社機能化学品事業本部が、社団法人日本プラントメンテナンス協会から、2010年度「TPM アドバンスト特別賞」を受賞しました。

2010年度全国のTPM優秀賞は24件でしたが、上位賞であるアドバンスト特別賞はそのうち2件という貴重なものです。



記念の盾を手にする機能化学品事業本部の関係者

□ 茅ヶ崎市と防災協定を締結

当社は、本年3月17日、茅ヶ崎市との間で災害時に市の防災活動を支援するための協定を締結しました。

この協定には、地下水を飲用可能にする濾過施設の提供や、災害時の救援組織等の拠点場所の提供など、当社の特色を生かした8つの協力事項が盛り込まれています。



茅ヶ崎市服部市長と当社久留嶋社長による協定書調印